

花の色は 移りにけりな  
いたづらに  
わが身世にふる ながめせしまに

これやこの 行くも帰るも  
別れては  
知るも知らぬも 逢坂の関

天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ  
乙女の姿 しばしとどめむ